



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月4日

上場会社名 武田薬品工業株式会社 上場取引所 大阪・東京・名古屋各第一部・福岡・札幌
 コード番号 4502 URL <http://www.takeda.co.jp>
 代表者 代表取締役社長 長谷川 閑史
 問合せ先責任者 コーポレート・コミュニケーション部長 クリストファー ホフマン TEL (03)3278-2037
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 :有
 四半期決算説明会開催の有無 :有

(百万円未満四捨五入)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	1,189,109	5.5	150,672	△43.1	151,300	△42.9	138,912	△13.5
24年3月期第3四半期	1,127,608	4.3	265,019	△20.3	265,079	△21.2	160,607	△25.5

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 203,255百万円(-%) 24年3月期第3四半期△30,284百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	175.96	175.93
24年3月期第3四半期	203.46	203.42

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	3,783,727	2,122,413	54.5	2,611.11
24年3月期	3,577,030	2,071,866	56.2	2,548.53

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 2,061,343百万円 24年3月期 2,011,841百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	90.00	—	90.00	180.00
25年3月期	—	90.00	—		
25年3月期(予想)				90.00	180.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 :無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	1,550,000	2.7	160,000	△39.6	150,000	△44.5	155,000	24.8	196.35

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 :無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動):無
新規 ー社 (社名) 、除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 :有
(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 :有
② ①以外の会計方針の変更 :無
③ 会計上の見積りの変更 :有
④ 修正再表示 :無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料11ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	789,666,095株	24年3月期	789,666,095株
25年3月期3Q	216,029株	24年3月期	252,486株
25年3月期3Q	789,431,149株	24年3月期3Q	789,394,302株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点においては、レビュー手続は一部終了していません。なお、レビュー手続を終了後、2月14日に四半期報告書を提出する予定です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・当社の業績は、事業環境の変化や為替変動による影響など、現在および将来において様々なリスクにさらされております。本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づくものですが、事業環境等の変化により、当社業績に重大な影響が生じると判断した場合には、速やかにご報告いたします。詳細につきましては添付資料P.10「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

・本日2/4(月)開催の決算説明カンファレンスコールにおける資料、説明内容および主な質疑応答については、速やかに当社のホームページに掲載致します。

(当社ホームページ)

http://www.takeda.co.jp/investor-information/quarterly-results/index_869.html

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報.....	10
(3) 連結業績予想に関する定性的情報.....	10
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項.....	11
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動.....	11
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用.....	11
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示.....	11
3. 四半期連結財務諸表.....	12
(1) 四半期連結貸借対照表.....	12
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	14
四半期連結損益計算書.....	14
四半期連結包括利益計算書.....	15
(3) 継続企業の前提に関する注記.....	16
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	16
(5) セグメント情報等.....	16
(6) 販売実績（外部顧客に対する売上高）.....	17
4. 補足情報.....	18
(1) 連結医療用医薬品売上高.....	18
(2) 連結医療用医薬品 主要品目売上高（地域別）.....	18
(3) 医療用医薬品 主要品目国内単体売上高.....	19
(4) 一般用医薬品 主要品目売上高.....	19
(5) 開発の状況.....	20

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

①はじめに

財政危機に端を発した欧州の景気停滞は、先進国のみならず新興国の経済成長にも影響を与え、世界的に景気の減速傾向が見られます。国内においては、昨年末の政権交代により、政策への期待が高まってきており、足元では政府・日銀の共同歩調による金融緩和、インフレターゲット2%の設定、大型補正予算の編成等を背景とした円安と株高も進行していますが、日本企業が国際競争力を高め、経済が本格的な回復基調に乗るには、暫く時間を要すると思われれます。

医薬品市場の動向をみると、大型製品の相次ぐ特許切れや景気停滞の影響に加え、各国で財政再建を背景とする医療費抑制策の強化が進んでいることなどにより、先進国を中心に成長が鈍化しております。また研究開発においても承認審査の厳格化や技術革新の壁に直面し、画期的な新薬の創出は困難となってきておりますが、iPS技術の実用化、アンメット・ニーズを満たす新薬の創出に繋がるイノベーションに大きな期待が寄せられています。

当社は、昨春策定した「12-14 中期計画」において、引き続き「新たなタケダへの変革」を目指し「革新への挑戦 (Innovation)」と「活力ある企業文化の創造 (Culture)」を通じて「持続的な成長 (Growth)」を実現するという経営方針に沿った取り組みを着実に推進しております。具体的には、先進国市場・新興国市場それぞれのニーズにあった製品の供給等を通じて、各国・地域での当社のプレゼンスの向上に取り組んでおります。また、研究開発活動においては、研究開発生産性の向上に注力するとともに、将来の持続的成長に必要な投資を実施しています。特に、後期開発品目の確実な承認取得、重点疾患領域への優先順位付けを明確にした資源の集中的な投下による新規化合物の創出に加え、バイオベンチャーや大学等の研究機関と連携した共同研究等を通じて新規性の高い技術を活用した疾患メカニズムの解明・創薬評価方法の確立に取り組んでいます。

<先進国市場での取り組み>

市場規模の大きい先進国では、既存品から新製品を中心とした製品構成への転換を進めています。米国においては、痛風領域フランチャイズの強化に向け、昨年6月に買収した「URL ファーマ Inc.(URLファーマ社)」の主力製品であり急性期の痛風治療剤である「コルクリス」が、成人痛風患者の高尿酸血症治療剤「ユーロリック」との相乗効果を発揮しつつあります。新製品については、昨年4月に米国において販売を開始した腎性貧血治療剤「オモンティス」は、透析期患者(成人)を対象とした赤血球造血刺激因子製剤として、米国において初めて承認された1ヶ月製剤であり、大規模および中小透析施設にて処方が進んでおります。また、日本において昨年5月に販売を開始した高血圧症治療剤「アジルバ」は、日本で最も使用されている同じ薬効の医薬品であり、当社の主力品でもある「プロプレス」と比較した臨床試験において、優れた血圧低下作用が確認され、医療関係者からも高い評価を得ており、着実に市場に浸透しています。また、本年1月には、高脂血症治療剤「ロトリガ」の日本における販売を開始しました。欧州においては、昨年11月にCHMP(欧州医薬品評価委員会)により希少疾病医薬品の認定を受けております悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」と鉄欠乏性貧血治療剤「リエンゾ」の販売を開始いたしました。「リエンゾ」は慢性腎疾患患者を対象とした臨床試験において、慢性腎疾患に広く投与されている経口鉄製剤と比較して、ヘモグロビン値の増加作用が強いことが確認されております。

<新興国市場での取り組み>

当社は、ここ当分の間でグローバル医薬品市場の成長の約7割を創出すると見込まれる新興国市場での取り組みを強化しております。

昨年7月のブラジルにおける「Multilab Indústria e Comércio de Produtos Farmacêuticos Ltda.(マルチラブ社)」の買収により、ブランドジェネリック(特許の切れた先発医薬品)や総合感冒薬「マルチグリップ」を含む OTC 製品等、需要の高いカテゴリーの製品を取得し、同国における多様な医療ニーズに応えられる体制を整備しました。この買収により、同国の医薬品売上高で当社がトップ 10 入りし、その後も順調に推移しております。また、昨年9月には、モスクワ北部の古都 ヤロスラブリの新工場が完成いたしました。当社にとって新興国で売上高が最大であるロシア市場での持続的成長をより確実なものとするため、2014 年の本格稼働に向けた準備を進めております。さらに新興国最大の市場である中国では、積極的な投資を継続しており、上海における開発拠点の開設による新薬の開発推進や販売員の増加による販売力強化など、中国市場の成長を取り込んだ持続的成長のための事業基盤強化を進めています。

< 研究開発活動 >

米国においては、本年1月に、2型糖尿病治療剤「ネシーナ(一般名:アログリプチン)」、「オセーニ(「ネシーナ」と同治療剤「アクトス」の合剤)」、および「カザーノ(「ネシーナ」と同治療剤「メホルミン」の合剤)」について、販売許可を取得しました。また、昨年 10 月には、多重作用メカニズム型抗うつ薬「LuAA21004」の販売許可を申請しております。

欧州においては、昨年9月、短腸症候群治療剤「リベスティブ」の販売許可を取得いたしました。さらに昨年4月、2型糖尿病治療薬「SYR-322(一般名:アログリプチン)」、同 10 月に非定型抗精神病薬「ルラシドン塩酸塩」の販売許可を申請しております。昨年 10 月には米国「リゴサイト・ファーマシューティカルズ Inc.(リゴサイト社)」を買収し、臨床開発段階にある世界で唯一のノロウイルスワクチンをはじめ、複数のワクチン関連のパイプラインを獲得し、グローバルなワクチン市場におけるプレゼンス獲得の基礎を築くことができました。さらに、同 11 月には、米国「エンボイ・セラピューティクス Inc.(エンボイ社)」の買収により、将来の創薬基盤強化につながる、疾患に関与する細胞に発現する新規創薬標的の同定を可能にする革新的技術に加え、同社が有する、パーキンソン病や統合失調症に伴う認知機能障害を対象とした中枢神経系の前臨床パイプラインを獲得しました。

さらに、後述(7ページの「④研究開発活動の内容および成果」)をご参照しておりますように、当社では研究開発生産性の向上に資する他社との共同研究や研究アライアンス活動等、様々な取り組みを積極的に推進しております。

また、持続的な成長の実現に向け、「経営の質」を高めることにグループを挙げて取り組んでいます。その一環として、グローバルカンパニーに相応しいオペレーティングモデルへの転換を実現するためのプロジェクトを立ち上げ、あらゆる検討を進めているところであります。

当社は、「タケダイズム」＝「誠実(公正・正直・不屈)」の精神を根幹に、コンプライアンスの遵守を基本原則として、今後も「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」という経営理念の実現に向けて邁進してまいります。

(注)ご参考として、次ページに 2010 年以降新たに発売した主要製品を記載しています。

<ご参考> 2010年以降新たに発売した主要製品

[日本]

<2010年新発売>

- 2型糖尿病治療剤「ネシーナ錠(一般名:アログリプチン安息香酸塩)」
- 高血圧症治療剤「ユニシア配合錠(「プロプレス」とカルシウム拮抗剤(アムロジピンベシル酸塩)の合剤)」
- 抗癌剤「ベクティビックス点滴静注(一般名:パニツムマブ)」
- 不眠症治療剤「ロゼレム錠(一般名:ラメルテオン)」
- 2型糖尿病治療剤「メタクト配合錠(「アクトス」とビグアナイド系薬剤(メホルミン塩酸塩)の合剤)」
- 2型糖尿病治療剤「アクトスOD錠(口腔内崩壊錠)」
- ヘリコバクター・ピロリ二次除菌用組み合わせ製剤「ランピオンパック(「タケプロン」、アモキシシリン水和物およびメトロニダゾールの組み合わせ製剤)」

<2011年新発売>

- アルツハイマー型認知症治療剤「レミニール(一般名:ガランタミン臭化水素酸塩)」(「ヤンセンファーマ株式会社」からの導入品であり同社と共同販売を実施)
- 2型糖尿病治療剤「ソニアス配合錠(「アクトス」とスルホニルウレア系薬剤(グリメピリド)の合剤)」
- 2型糖尿病治療剤「リオベル配合錠(「ネシーナ」と「アクトス」の合剤)」

<2012年5月新発売>

- 高血圧症治療剤「アジルバ錠(一般名:アジルサルタン)」

<2013年1月新発売>

- 高脂血症治療剤「ロトリガ粒状カプセル(一般名:オメガ-3脂肪酸エチル)」

[北米]

(米国)

<2010年新発売>

- 2型糖尿病治療剤「アクトプラスメットXR(「アクトス」とビグアナイド系薬剤(メホルミン徐放製剤)の合剤)」

<2011年新発売>

- 高血圧症治療剤「イダービ(一般名:アジルサルタン メドキシミル)」

<2012年2月新発売>

- 高血圧症治療剤「イダーバクロー(「イダービ」とサイアザイド系利尿剤(クロルタリドン)の合剤)」

<2012年4月新発売>

- 腎性貧血治療剤「オモンティス(一般名:ペギネサタイド)」

(カナダ)

<2010年新発売>

- 逆流性食道炎治療剤「デクスラント(一般名:デクスランソプラゾール)」
- 痛風・高尿酸血症治療剤「ユーロリック(一般名:フェブキシostat)」

<2011年新発売>

- 慢性閉塞性肺疾患治療剤「ダクサス(一般名:rofumilast)」

[欧州]

<2010年新発売>

- 非転移性骨肉腫治療剤「メパクト(一般名:ミファミルチド)」

<2012年1月新発売>

- 高血圧症治療剤「イダービ(一般名:アジルサルタン メドキシミル)」

<2012年11月新発売>

- 鉄欠乏症貧血治療剤「リエンゾ(一般名:ferumoxytol)」

<2012年11月新発売>

- 悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス(一般名:ブレンツキシマブ・ベドチン)」

[新興国のうち主なもの]

(ブラジル)

<2011年新発売>

- 慢性閉塞性肺疾患治療剤「ダクサス(一般名:rofumilast)」

(ロシア)

<2012年3月新発売>

- 慢性閉塞性肺疾患治療剤「ダクサス(一般名:rofumilast)」

(メキシコ)

<2011年新発売>

- 逆流性食道炎治療剤「デクスラント(一般名:デクスランソプラゾール)」
- 非転移性骨肉腫治療剤「メパクト(一般名:ミファミルチド)」

<2012年3月新発売>

- 高血圧症治療剤「イダービ(一般名:アジルサルタン メドキシミル)」

②当期(2012年4-12月期)における業績の概要

当期の連結業績は、以下のとおりとなりました。

売上高	11,891 億円	[対前年同期	615 億円 (5.5%) 増]
営業利益	1,507 億円	[〃	1,143 億円 (43.1%) 減]
経常利益	1,513 億円	[〃	1,138 億円 (42.9%) 減]
四半期純利益	1,389 億円	[〃	217 億円 (13.5%) 減]

〔売上高〕

前年同期から 615 億円 (5.5%) 増収の 11,891 億円となりました。

・国内では2型糖尿病治療剤「ネシーナ」、米国では多発性骨髄腫治療剤「ベルケイド」、逆流性食道炎治療剤「デクスラント」および痛風・高尿酸血症治療剤「ユーロリック」が伸長しました。さらに、今期発売を開始した国内における高血圧症治療剤「アジルバ」および米国における腎性貧血治療剤「オモンティス」の増収効果や、一昨年9月の「ナイコメッド社」買収により欧州およびアジアを含む新興国で販売基盤を拡大したことに伴う増収、ならびに昨年6月に買収した「URLファーマ社」から獲得した製品の米国での売上寄与もありましたので、為替レートが円高となった影響(88億円のマイナス)ならびに日米欧における2型糖尿病治療剤「アクトス」および高血圧症治療剤「カンデサルタン」の減収をカバーし、全体では増収となりました。

・医療用医薬品の主要品目の売上高は下記のとおりです。

高血圧症治療剤 「カンデサルタン(国内製品名:プロプレス)」	1,329 億円	対前年同期	359 億円 (21.3%) 減
2型糖尿病治療剤 「ピオグリタゾン(国内製品名:アクトス)」	1,092 億円	〃	1,278 億円 (53.9%) 減
前立腺癌・乳癌・子宮内膜症治療剤 「リュープロレリン(国内製品名:リュープリン)」	877 億円	〃	51 億円 (5.5%) 減
消化性潰瘍治療剤 「ランソプラゾール(国内製品名:タケプロン)」	856 億円	〃	72 億円 (7.8%) 減
消化性潰瘍治療剤 「パントプラゾール」	565 億円	〃	356 億円 (170.7%) 増(注)
多発性骨髄腫治療剤 「ベルケイド」(米国売上高)	539 億円	〃	114 億円 (26.8%) 増

(注) 2011年9月末の「ナイコメッド社」買収に伴い獲得した「パントプラゾール」について、買収前の2011年4月から9月までの売上高は前年比較の対象に含めておりません。

〔営業利益〕

前年同期から 1,143 億円 (43.1%) 減益の 1,507 億円となりました。

・増収により売上総利益が 300 億円 (3.6%) 増益となったものの、販売費及び一般管理費が 1,443 億円 (25.9%) 増加したことにより、営業利益は減益となりました。

・研究開発費は、418 億円 (22.0%) 増加し、2,316 億円となりました。

・研究開発費以外の販売費及び一般管理費は、「ナイコメッド社」買収に伴う発生費用の増加や、のれん・無形固定資産償却費の増加による影響などで 1,025 億円 (27.9%) 増加し、4,703 億円となりました。

〔経常利益〕

営業利益が減益となったことにより、前年同期から 1,138 億円 (42.9%) 減益の 1,513 億円となりました。

〔四半期純利益〕

特別損益で 147 億円の益(*1)を計上したことに加え、税金では過年度法人税等の戻り(*2)がありましたが、経常利益の減益を吸収することができず、前年同期から 217 億円 (13.5%) 減益の 1,389 億円となりました。

(*1) 投資有価証券売却益 170 億円、移転価格税制に係る還付加算金(益) 116 億円、海外子会社での合理化費用(損) 140 億円

(*2) 移転価格税制に係る還付税金(益) 456 億円

- ・1株当たり四半期純利益は、前年同期から 27 円 50 銭(13.5%)減少し、175 円 96 銭となりました。
- ・特別損益および企業買収などによる特殊要因除きの1株当たり四半期純利益(*3)は、前年同期から 66 円 82 銭(23.9%)減少し、212 円 25 銭となりました。

(*3) 四半期純利益から、特別損益、企業買収によるのれん償却費・無形固定資産償却費等の特殊要因および移転価格税制に係る還付税金を控除して算定しております。

③当期(2012年4-12月期)におけるセグメント別業績の状況

当期における各セグメントの売上高および営業利益は、以下のとおりとなりました。

セグメント	売上高		営業利益	
	金額	対前年同期	金額	対前年同期
医療用医薬品事業	10,706 億円	582 億円増	1,296 億円	1,147 億円減
〈国内〉	〈4,592 億円〉	〈6 億円減〉		
〈海外〉	〈6,114 億円〉	〈589 億円増〉		
ヘルスケア事業	531 億円	34 億円増	134 億円	8 億円増
その他事業	688 億円	3 億円減	92 億円	5 億円減
全社合計	11,891 億円	615 億円増	1,507 億円	1,143 億円減

(注) 各セグメントの売上高は、各報告セグメントの外部顧客に対する売上高を表しております。

〔医療用医薬品事業〕

医療用医薬品事業の売上高は前年同期から 582 億円 (5.8%) 増収の 10,706 億円となり、営業利益は前年同期から 1,147 億円 (46.9%) 減益の 1,296 億円となりました。

このうち国内売上高は、「ネシーナ」、「ベクティビックス」をはじめとして、2010年に発売した製品群および今期発売を開始した「アジルバ」等の寄与があったものの、「アクトス」および「プロプレス」等の減少を吸収できず、6億円(0.1%)減収の 4,592 億円となりました。

主な品目の国内売上高は下記のとおりです。

「プロプレス」(高血圧症治療剤)	1,041 億円	対前年同期	68 億円(6.1%)減
「タケプロン」(消化性潰瘍治療剤)	537 億円	〃	56 億円(9.4%)減
「リュープリン」(前立腺癌・乳癌・子宮内膜症治療剤)	508 億円	〃	14 億円(2.6%)減
「ネシーナ」(2型糖尿病治療剤)	258 億円	〃	155 億円(151.4%)増
「アクトス」(2型糖尿病治療剤)	153 億円	〃	112 億円(42.2%)減
「ベクティビックス」(抗悪性腫瘍剤)	147 億円	〃	17 億円(12.8%)増

海外売上高は、「ナイコメッド社」買収に伴う欧州およびアジアを含む新興国での増収および「URLファーマ社」の買収による売上寄与により、米欧における「アクトス」および「カンデサルタン」の減収や円高による減収影響を吸収し、前年同期から 589 億円(10.7%)増収の 6,114 億円となりました。

主な品目の海外売上高は下記のとおりです。

「ピオグリタゾン」(2型糖尿病治療剤)	939 億円	対前年同期 1,167 億円(55.4%)減
「パントプラゾール」(消化性潰瘍治療剤)	565 億円	〃 356 億円(170.7%)増(注)
「ベルケイド」(多発性骨髄腫治療剤)	539 億円	〃 114 億円(26.8%)増
「リュープロレリン」(前立腺癌・乳癌・子宮内膜症治療剤)	369 億円	〃 38 億円(9.3%)減
「ランソプラゾール」(消化性潰瘍治療剤)	320 億円	〃 17 億円(4.9%)減
「カンデサルタン」(高血圧症治療剤)	288 億円	〃 291 億円(50.3%)減
「デクスラント」(逆流性食道炎治療剤)	235 億円	〃 61 億円(35.3%)増

(注) 2011 年9月末の「ナイコメッド社」買収に伴い獲得した「パントプラゾール」について、買収前の 2011 年4月から9月までの売上高は前年比較の対象に含めておりません。

[ヘルスケア事業]

ヘルスケア事業の売上高は、「アリナミンドリンク類」、「ベンザ類」等の増収により、前年同期から 34 億円(6.9%)増収の 531 億円となりました。営業利益は増収に伴う売上総利益の増益等により、8億円(6.2%)増益の 134 億円となりました。

[その他事業]

その他事業の売上高は前年同期から3億円(0.4%)減収の 688 億円、営業利益は5億円(5.1%)減益の 92 億円となりました。

④研究開発活動の内容および成果

当社は、常に医療上のニーズをふまえ、研究開発戦略を決定しています。「12-14 中期計画」においては、「代謝性・循環器系疾患」、「癌」、「中枢神経系疾患」、「呼吸器・免疫系疾患」、「消化器・泌尿生殖器系疾患」、「ワクチン」を重点領域と位置付け、経営資源を投下し、画期的新薬の創出に挑戦してまいります。なお当期における研究開発活動の主な内容および成果は下記のとおりです。

[自社創製品に関する取り組み]

- ・ 昨年4月、2型糖尿病治療剤「ネシーナ(一般名:アログリプチン)」、および「オセーニ(「ネシーナ」と同治療剤「アクトス」の合剤)」について、米国食品医薬品局(FDA)より、審査結果通知を受領しました。同年7月、「ネシーナ」および「オセーニ」に関する追加データを提出し、本年1月、FDAより販売許可を取得しました。
- ・ 昨年5月、2型糖尿病治療薬「SYR-322(一般名:アログリプチン)」について、欧州医薬品庁(EMA)に、販売許可申請を提出し、受理されました。
- ・ 昨年5月、潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬「MLN0002(一般名:vedolizumab)」について、抗 TNF α 抗体を含む既存薬不応の中等症から重症の活動期クローン病を対象とした臨床第3相試験(GEMINI II 試験)において、主要評価項目である導入期および維持期の寛解を達成しました。
- ・ 昨年6月、初めての経口プロテアソーム阻害薬である、多発性骨髄腫治療薬「MLN9708(一般名:

ixazomib citrate)」について、米国臨床腫瘍学会年次集会(ASCO)において、再発・難治性の多発性骨髄腫を対象とした安全性・忍容性の評価、および用量設定を目的とした2つの臨床第1相試験と臨床第1/2相試験の結果を発表しました。同月、再発・難治性の多発性骨髄腫患者を対象とした臨床第3相試験(TOURMALINE-MM1試験)を開始しました。昨年12月、第54回米国血液学会年次総会(ASH)において、未治療の多発性骨髄腫を対象に、「MLN9708」と標準用量の「レナリドマイド」および「デキサメタゾン」を併用した臨床第1/2相試験の結果、および再発・難治性の全身性ALアミロイドーシスを対象とした臨床第1相試験結果を発表しました。

- ・ 昨年6月、前立腺癌治療薬「TAK-700(一般名:orteronel)」について、ASCOにおいて、前立腺特異抗原(PSA)が上昇した非転移性の去勢抵抗性前立腺癌患者を対象に、プレドニゾン併用せずに「TAK-700」を経口投与した際の有効性と安全性を検討した臨床第2相試験の最新解析結果を発表しました。
- ・ 昨年8月、プロトンポンプ阻害剤「タケプロン(一般名:ランソプラゾール)」について、アモキシシリン水和物、クラリスロマイシンまたはメロニダゾールを用いた3剤併用によるヘリコバクター・ピロリ感染胃炎におけるヘリコバクター・ピロリの除菌療法に係る適応追加の申請を厚生労働省に提出しました。
- ・ 昨年12月、第54回ASHにおいて、多発性骨髄腫治療剤「ベルケイド(一般名:ボルテゾミブ)」をベースとした治療の有効性・安全性に関する2つの臨床試験結果について、発表しました。

[合剤等に関する取り組み]

- ・ 昨年6月、2型糖尿病治療剤「SYR-322」と同治療剤「アクトス」の合剤ならびに「SYR-322」と同治療剤「メトホルミン」の合剤について、EMAに販売許可申請を提出し、受理されました。
- ・ 本年1月、2型糖尿病治療剤「カザーノ(「ネシーナ」と「メトホルミン」の合剤)」について、FDAより販売許可を取得しました。

[導入品(アライアンス)に関する取り組み]

- ・ 昨年4月、米国「エーマグ・ファーマシューティカルズ社」より導入した静注用鉄欠乏性貧血治療剤「リエンゾ(一般名:フェルモキシトール)」について、EMAの欧州医薬品評価委員会(CHMP)において販売承認を推奨する見解が示され、同年6月、欧州委員会(EC)より販売許可を取得しました。
- ・ 昨年6月、米国「NPSファーマシューティカルズ社」より導入した短腸症候群治療剤「リバスティブ(一般名:teduglutide)」について、EMAのCHMPにおいて販売承認を推奨する見解が示され、同年9月、ECより販売許可を取得しました。
- ・ 昨年6月、米国「アムジェン社」より導入した抗癌薬「Motesanib diphosphate」について、当社とアムジェン社は、2008年2月に締結した契約を終了し、新たなライセンス契約を締結しました。これにより、当社は、「Motesanib diphosphate」について、全世界を対象とした独占的開発・販売権を有することになりました。また、同年7月、当社は、「Motesanib diphosphate」について、進行性非扁平上皮非小細胞肺癌を対象に化学療法との併用によるアジア共同臨床第3相試験を開始しました。本試験は、日本、香港、韓国、台湾で実施します。
- ・ 昨年8月、米国「アムジェン社」より導入した抗癌薬「AMG479(一般名:ganitumab)」について、同社がグローバル試験の中止を決定したことから、日本においても膵癌に対する臨床第3相試験を中止することを決定しました。
- ・ 昨年9月、ノルウェー「プロノバ社」より導入した高脂血症治療剤「ロトリガ(一般名:オメガ-3脂肪酸

エチル)」について、厚生労働省より製造販売承認を取得しました。

- ・ 昨年 10 月、デンマーク「ルンドベック社」より導入した多重作用メカニズム型抗うつ薬「LuAA21004 (一般名:vortioxetine)」について、成人の大うつ病を適応症とした販売許可申請を FDA に提出しました。
- ・ 昨年 10 月、「大日本住友製薬株式会社」より導入した非定型抗精神病薬「ルラシドン塩酸塩」について、統合失調症を適応症とした販売許可申請を EMA に提出し、受理されました。
- ・ 昨年 10 月、オランダ「ノルジーン社」より導入した肥満症治療薬「ATL-962(一般名:cetilistat)」について、製造販売承認申請を厚生労働省に提出しました。
- ・ 昨年 10 月、米国「シアトルジェネティクス社」より導入した悪性リンパ腫治療剤「ADCETRIS(一般名:ブレツキシマブ・ベドチン)」について、欧州委員会(EC)より、以下を適応症として、条件付き販売許可を取得しました。
 (1)自己幹細胞移植後、または、自己幹細胞移植や多剤併用化学療法が適さず少なくとも2種類以上の治療を実施した、成人の再発・難治性の CD30 陽性ホジキンリンパ腫、および(2)成人の再発・難治性の全身性未分化大細胞リンパ腫。
 なお、本剤は欧州および韓国において、患者数が非常に少ない疾患に関する薬剤等に対して与えられるオーファン指定を受けております。昨年 12 月、第 54 回 ASH において、全身性未分化大細胞リンパ腫を含む成熟型 T 細胞性リンパ腫と新たに診断された患者さんを対象に「ADCETRIS」と化学療法を併用した臨床第1相試験の結果、および新たに進行性ホジキンリンパ腫と診断された患者さんを対象に ADCETRIS と化学療法を併用した臨床第1相試験の結果を発表しました。
- ・ 昨年 12 月、米国「アミン・ファーマシューティカルズ社」と 2009 年 10 月に締結した抗肥満薬のグローバル共同開発・販売契約について、両社の合意に基づき終結することを決定しました。
- ・ 昨年 12 月、「味の素製薬株式会社」より導入した骨粗鬆症治療剤「ベネット錠」(一般名:リセドロン酸ナトリウム水和物)の月1回投与製剤について、厚生労働省より製造販売承認を取得しました。
- ・ 本年1月、米国「アムジェン社」より導入した抗癌剤「ベクティビックス」の治癒切除不能な結腸・直腸癌を対象とした全例調査結果を、「ASCO 消化器癌シンポジウム」において発表しました。

[共同研究に関する取り組み]

- ・ 昨年8月、当社は、カナダの研究機関「BC キャンサー・エージェンシー」と、当社湘南研究所内で遺伝子解析を利用した創薬標的探索に関する共同研究を実施する契約を締結しました。本共同研究は、当社湘南研究所に外部の研究機関から優秀な研究者を招き、同研究所内の施設の一部を利用して当社研究者とともに研究活動を実施する「湘南インキュベーションラボ」として行う初めてのプロジェクトとなります。
- ・ 昨年 10 月、当社とインドの製薬企業「アドビナス・セラピューティクス社」は、炎症性・中枢神経系・代謝性疾患を中心とした疾患領域における新規創薬標的を対象とした3年間の共同研究契約を締結しました。

[研究開発体制の整備・強化]

- ・ 昨年 10 月、ワクチン事業の強化を目的として、米国「リゴサイト・ファーマシューティカルズ Inc.」を買収いたしました。
- ・ 昨年 11 月、創薬基盤強化を目的として、米国「エンボイ・セラピューティクス Inc.」を買収いたしました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

〔資産〕

当四半期末における総資産は3兆7,837億円となり、前連結会計年度末に比べ2,067億円増加しました。期末日レートの円安に推移したことによる海外資産の増加や買収に伴うのれんを含む無形固定資産の増加などにより、流動資産が523億円、固定資産が1,544億円増加しております。

〔負債〕

当四半期末における負債は1兆6,613億円となり、前連結会計年度末に比べ1,561億円増加しました。なお、為替影響に加え、「ナイコメッド社」買収に伴う短期借入金を返済するため、30億米ドルの外貨建無担保普通社債を発行したことなどにより、流動負債は1,789億円減少した一方で、固定負債は3,351億円増加しております。

〔純資産〕

当四半期末における純資産は2兆1,224億円となりました。配当金の支払があったものの、純利益による増加に加え、円安に伴う為替換算調整勘定の改善などにより前連結会計年度末から505億円増加しました。

自己資本比率は54.5%となり、前連結会計年度末から1.8ポイント減少しております。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、当四半期累計期間の実績、前提となる為替レートの見直しならびに昨年11月に公表した「エンボイ社」の買収影響を織り込むなど、見直しを実施しておりますが、下記の前回発表予想(平成24年10月31日の決算発表時)から修正はございません。

〔平成25年3月期の連結業績予想〕

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通 期	15,500 億円	1,600 億円	1,500 億円	1,550 億円

〔見通しの前提条件〕

通期の平均為替レート的前提は、1米ドル=82円、1ユーロ=105円としております。

〔見通しに関する注意事項〕

当社の業績は、事業環境の変化や為替変動による影響など、現在および将来において様々なリスクにさらされております。本業績見通しに織り込まれていない事象が発生し、財務上重要な影響があると判断した場合には、速やかにご報告いたします。

また、本業績見通しに織り込んだ「URLファーマ社」、「マルチラブ社」、「リゴサイト社」および「エンボイ社」にかかる企業結合会計等による影響については、買収手続き完了後1年以内に会計監査人による監査を経て確定しますので、現時点での見通しであり確定額ではありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

・会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

① 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成 24 年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これに伴う当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響額は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	214,885	262,241
受取手形及び売掛金	344,679	380,465
有価証券	240,740	159,852
商品及び製品	93,514	106,109
仕掛品	52,594	57,343
原材料及び貯蔵品	48,906	61,038
繰延税金資産	221,230	220,721
その他	65,303	86,853
貸倒引当金	△2,855	△3,370
流動資産合計	1,278,996	1,331,251
固定資産		
有形固定資産	488,702	504,377
無形固定資産		
のれん	582,257	638,613
特許権	322,537	387,276
販売権	570,166	564,225
その他	41,288	64,174
無形固定資産合計	1,516,247	1,654,287
投資その他の資産		
投資有価証券	186,697	176,469
その他	106,507	117,417
貸倒引当金	△119	△75
投資その他の資産合計	293,085	293,812
固定資産合計	2,298,035	2,452,476
資産合計	3,577,030	3,783,727

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	101,950	108,648
短期借入金	241,411	1,671
未払法人税等	24,097	123,059
賞与引当金	35,288	34,985
その他の引当金	11,883	8,138
その他	337,103	296,288
流動負債合計	751,731	572,790
固定負債		
社債	190,000	428,830
長期借入金	111,393	111,377
繰延税金負債	301,758	320,296
退職給付引当金	54,430	56,843
その他の引当金	10,941	11,665
その他	84,911	159,514
固定負債合計	753,433	1,088,525
負債合計	1,505,165	1,661,314
純資産の部		
株主資本		
資本金	63,541	63,541
資本剰余金	49,638	39,949
利益剰余金	2,254,075	2,250,796
自己株式	△808	△634
株主資本合計	2,366,446	2,353,652
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	87,046	80,822
繰延ヘッジ損益	2	△90
為替換算調整勘定	△441,653	△373,041
その他の包括利益累計額合計	△354,605	△292,309
新株予約権	504	812
少数株主持分	59,522	60,258
純資産合計	2,071,866	2,122,413
負債純資産合計	3,577,030	3,783,727

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	1,127,608	1,189,109
売上原価	305,019	336,556
売上総利益	822,588	852,553
販売費及び一般管理費		
研究開発費	189,738	231,574
その他	367,831	470,307
販売費及び一般管理費合計	557,569	701,881
営業利益	265,019	150,672
営業外収益		
受取利息	1,381	838
受取配当金	3,734	3,444
為替差益	—	2,442
持分法による投資利益	307	778
受取賃貸料	3,743	3,590
営業譲渡益	3,030	3,933
その他	4,558	3,554
営業外収益合計	16,752	18,580
営業外費用		
支払利息	1,156	2,268
寄付金	3,788	2,109
為替差損	6,574	—
条件付取得対価に係る公正価値変動額	—	4,115
その他	5,173	9,459
営業外費用合計	16,692	17,951
経常利益	265,079	151,300
特別利益		
固定資産売却益	17,636	—
投資有価証券売却益	—	17,039
法人税等還付加算金	—	11,593
特別利益合計	17,636	28,631
特別損失		
事業構造再編費用	—	13,969
特別損失合計	—	13,969
税金等調整前四半期純利益	282,716	165,963
法人税等	119,532	71,161
過年度法人税等	—	△45,623
法人税等合計	119,532	25,539
少数株主損益調整前四半期純利益	163,184	140,425
少数株主利益	2,577	1,512
四半期純利益	160,607	138,912

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	163,184	140,425
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,121	△6,206
繰延ヘッジ損益	332	△92
為替換算調整勘定	△191,611	65,978
持分法適用会社に対する持分相当額	△68	3,150
その他の包括利益合計	△193,468	62,830
四半期包括利益	△30,284	203,255
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△32,882	201,208
少数株主に係る四半期包括利益	2,598	2,047

(3) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

① 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	医療用医薬品	ヘルスケア	その他			
売上高						
外部顧客への売上高	1,012,397	49,659	69,019	1,131,075	△ 3,468	1,127,608
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,496	128	4,823	7,447	△ 7,447	—
計	1,014,893	49,787	73,842	1,138,522	△ 10,914	1,127,608
セグメント利益	244,364	12,589	9,704	266,656	△ 1,637	265,019

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	医療用医薬品	ヘルスケア	その他			
売上高						
外部顧客への売上高	1,070,619	53,071	68,760	1,192,450	△ 3,341	1,189,109
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,367	298	4,802	7,467	△ 7,467	—
計	1,072,987	53,369	73,561	1,199,917	△ 10,808	1,189,109
セグメント利益	129,644	13,366	9,212	152,222	△ 1,550	150,672

(注) セグメント利益は、各セグメントの営業利益を表示しております。

② 地域ごとの情報

売上高

前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

(単位:百万円)

日本	米州			欧州		アジア	その他	合計
	うち米国	うち中南米	うちロシア /CIS					
568,527	348,785	321,299	17,312	174,316	16,414	26,613	9,367	1,127,608

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

(単位:百万円)

日本	米州		欧州		アジア	その他	合計	
	うち米国	うち中南米	うちロシア /CIS					
571,024	329,258	270,586	46,325	227,724	48,359	44,942	16,161	1,189,109

(注) 1. 第1四半期連結会計期間より、地域別売上に関するより詳細な情報を提供するため、地域区分を変更し、従来の「アジア他」を「アジア」と「その他」に分割しております。さらに、「米州」において「うち中南米」、および「欧州」において「うちロシア/CIS」の区分を追加しております。なお、前第3四半期連結累計期間については変更後の区分方法により作成しております。また、本変更に合わせて、米州以外の各地域に帰属する国を一部見直しております。

2. 「その他」には、中東・大洋州・アフリカが含まれております。

(6) 販売実績(外部顧客に対する売上高)

前第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

(単位:百万円)

医療用医薬品			ヘルスケア	その他	調整額	四半期連結損益 計算書計上額	(内、知的財産権収益)
(国内)	(海外)	小計					
459,871	552,527	1,012,397	49,659	69,019	△ 3,468	1,127,608	(32,071)

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

(単位:百万円)

医療用医薬品			ヘルスケア	その他	調整額	四半期連結損益 計算書計上額	(内、知的財産権収益)
(国内)	(海外)	小計					
459,241	611,378	1,070,619	53,071	68,760	△ 3,341	1,189,109	(34,750)

4. 補足情報

(1) 連結医療用医薬品売上高

(億円)

(億円)

	平成24年3月期 第3四半期累計	平成25年3月期 第3四半期累計	対前年同期		平成24年3月期 第3四半期	平成25年3月期 第3四半期	対前年同期	
			金額	増減率			金額	増減率
国内製商品売上高	4,615	4,603	△11	△0.2%	1,642	1,631	△11	△0.7%
海外製商品売上高	5,180	5,738	558	10.8%	2,101	1,818	△283	△13.5%
米州	3,361	3,160	△201	△6.0%	1,123	926	△197	△17.5%
うち米国	3,127	2,580	△547	△17.5%	936	716	△220	△23.5%
うち中南米	172	459	288	167.6%	150	168	18	11.9%
欧州	1,500	2,009	509	33.9%	812	691	△121	△14.9%
うちロシア/CIS	163	483	320	195.6%	163	188	25	15.3%
アジア	233	416	183	78.2%	118	150	32	26.7%
その他	85	153	68	79.2%	47	51	3	7.3%
知的財産権収益・役務収益	355	389	34	9.7%	119	161	43	35.9%
国内	9	13	4	39.9%	4	6	2	44.8%
海外	345	376	31	8.9%	114	155	41	35.6%
売上高 合計	10,149	10,730	581	5.7%	3,861	3,610	△251	△6.5%

(注) 1. 売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

2. 第1四半期連結会計期間より、地域別売上に関するより詳細な情報を提供するため、地域区分を変更し、従来の「アジア他」を「アジア」と「その他」に分割しております。さらに、「米州」において「うち米国」、「うち中南米」、および「欧州」において「うちロシア/CIS」の区分を追加しております。なお、前第3四半期連結累計期間については変更後の区分方法により作成しております。また、本変更に合わせて、米州以外の各地域に帰属する国を一部見直しております。

3. 「その他」には、中東・大洋州・アフリカが含まれております。

連結医療用医薬品 海外売上高比率	54.4%	57.0%
------------------	-------	-------

	57.4%	54.6%
--	-------	-------

【為替レート】(円)	平成24年3月期 第3四半期累計	平成25年3月期 第3四半期累計
ドル 平均レート(4-12月)	79.0	79.8
ユーロ 平均レート(4-12月)	110.6	102.0

【為替レート】(円)	平成24年3月期 第3四半期	平成25年3月期 第3四半期
ドル 平均レート(10-12月)	77.4	79.8
ユーロ 平均レート(10-12月)	104.4	103.3

(*) 第3四半期の海外子会社の売上高は、累計平均レートで算出した第3四半期累計円貨と第2四半期累計円貨の差引きにより算出したものであり、当四半期(3ヶ月)平均レートは参考としてのみの表示であります。

(2) 連結医療用医薬品 主要品目売上高(地域別)

(億円)

(億円)

品目	平成24年3月期 第3四半期累計	平成25年3月期 第3四半期累計	対前年同期		平成24年3月期 第3四半期	平成25年3月期 第3四半期	対前年同期	
			金額	増減率			金額	増減率
リュープロレリン								
連結売上高	928	877	△51	△5.5%	319	303	△16	△4.9%
日本	521	508	△14	△2.6%	184	178	△5	△2.9%
米州	127	107	△20	△16.1%	42	35	△7	△17.4%
欧州	231	205	△27	△11.5%	75	69	△6	△8.2%
アジア・その他	47	57	10	20.1%	17	20	3	18.5%
ランソプラゾール								
連結売上高	929	856	△72	△7.8%	305	298	△8	△2.6%
日本	592	537	△56	△9.4%	216	189	△28	△12.7%
米州	180	196	16	8.9%	40	62	21	52.8%
欧州	125	79	△46	△37.0%	37	31	△7	△18.1%
アジア・その他	31	45	14	43.7%	11	16	5	45.9%
カンデサルタン (注)								
連結売上高	1,688	1,329	△359	△21.3%	564	437	△128	△22.6%
日本	1,109	1,041	△68	△6.1%	400	368	△32	△8.0%
米州・欧州・アジア・その他	579	288	△291	△50.3%	165	69	△96	△58.1%
ピオグリタゾン								
連結売上高	2,370	1,092	△1,278	△53.9%	660	172	△488	△74.0%
日本	265	153	△112	△42.2%	75	51	△24	△32.4%
米州	1,938	842	△1,095	△56.5%	544	92	△452	△83.1%
欧州	135	62	△73	△54.2%	31	19	△13	△40.8%
アジア・その他	32	34	2	5.8%	9	11	1	11.9%
バルケイド(米国)	425	539	114	26.8%	144	182	38	26.3%
アミディエーザ(米国)	139	165	26	18.6%	44	58	14	32.2%
デクスラント(米州)	174	235	61	35.3%	65	84	18	27.6%
ユーロリック(米州)	93	128	35	37.4%	32	47	15	45.3%
パントプラゾール	209	565	356	170.7%	209	197	△11	△5.5%
ダクサス	6	22	16	-	6	8	2	28.5%

(注) カンデサルタンは、ライセンス先への輸出売上高を単一ルートで計上しているため、日本と米州・欧州・アジア・その他の2区分で表示しています。

(3) 医療用医薬品 主要品目国内単体売上高

品目	発売年月	薬効区分	(億円)				(億円)			
			平成24年3月期 第3四半期累計	平成25年3月期 第3四半期累計	対前年同期		平成24年3月期 第3四半期	平成25年3月期 第3四半期	対前年同期	
					金額	増減率			金額	増減率
プロプレス	(1999. 6)	高血圧症治療剤	1,109	1,041	△68	△6.1%	400	368	△32	△8.0%
うち、エカード	(2009. 3)	高血圧症治療剤	100	97	△3	△3.2%	36	34	△2	△5.9%
うち、ユニシア	(2010. 6)	高血圧症治療剤	129	169	40	31.0%	52	63	10	19.8%
タケブロン	(1992.12)	消化性潰瘍治療剤	592	537	△56	△9.4%	216	189	△28	△12.7%
リュープリン	(1992. 9)	前立腺癌・乳癌・ 子宮内膜症治療剤	521	508	△14	△2.6%	184	178	△5	△2.9%
エンブレル	(2005. 3)	抗リウマチ剤	317	333	16	5.1%	109	115	6	5.5%
ネシーナ	(2010. 6)	糖尿病治療剤	102	258	155	151.4%	49	105	55	111.5%
うち、リオベル	(2011. 9)	糖尿病治療剤	7	35	28	-	1	17	15	-
アクトス	(1999.12)	糖尿病治療剤	265	153	△112	△42.2%	75	51	△24	△32.4%
ベイスン	(1994. 9)	糖尿病治療剤	206	153	△53	△25.7%	70	51	△19	△26.7%
ベクティビックス	(2010. 6)	抗悪性腫瘍剤	130	147	17	12.8%	49	51	2	3.3%
ベネット	(2002. 5)	骨粗鬆症治療剤	132	104	△28	△21.4%	45	35	△10	△21.3%
レミニール	(2011. 3)	アルツハイマー型 認知症治療剤	18	62	45	-	9	25	16	188.4%
セルタッチ	(1993. 9)	経皮吸収型鎮痛消炎剤	63	54	△9	△13.9%	21	18	△3	△15.6%
乾燥弱毒生麻しん風しん 混合ワクチン「タケダ」	(2006. 1)	麻しん及び風しんの 予防ワクチン	61	53	△8	△13.6%	11	9	△1	△11.5%
ロゼレム	(2010. 7)	不眠症治療剤	17	33	16	96.1%	8	13	5	62.4%
アジルバ	(2012. 5)	高血圧症治療剤	-	21	21	-	-	2	2	-

(4) 一般用医薬品 主要品目売上高

品目	(億円)				(億円)			
	平成24年3月期 第3四半期累計	平成25年3月期 第3四半期累計	対前年同期		平成24年3月期 第3四半期	平成25年3月期 第3四半期	対前年同期	
			金額	増減率			金額	増減率
アリナミン錠剤類	121	123	2	1.8%	43	44	1	2.0%
アリナミンドリンク類	107	119	12	11.7%	37	39	2	5.5%
ベンザ類	80	86	6	7.7%	29	33	4	13.9%
ピオフェルミン類	58	63	5	9.4%	21	23	2	8.5%
ボラギノール類	33	33	0	0.5%	13	13	△0	△2.4%

(5) 開発の状況

■ 日米欧

開発コード／製品名 <一般名>	薬効(剤形)	適応症	開発段階	自社品/導入品
Feraheme[®] / Rienso[®] <ferumoxytol>	静注用鉄製剤 (注射剤)	成人における慢性腎疾患に伴う鉄欠乏性貧血	欧州 承認(12/6)	導入品 (AMAG 社)
ロトリガ[®] <omega-3-acid ethyl esters 90>	EPA・DHA 製剤 (経口剤)	高脂血症	日本 承認(12/9)	導入品 (Pronova 社)
Revestive[®] <teduglutide>	GLP-2 アナログ (注射剤)	短腸症候群	欧州 承認(12/9)	導入品 (NPS 社)
SGN-35 <brentuximab vedotin>	CD30 モノクローナル抗体薬物 複合体(注射剤)	再発・難治性のホジキンリンパ腫	欧州 承認(12/10) 日本 P-I/II	導入品 (Seattle Genetics 社)
		再発・難治性の全身性未分化大細胞リンパ腫	欧州 承認(12/10) 日本 P-I/II	
		再発性皮膚 T 細胞性リンパ腫	欧州 P-III	
		自己幹細胞移植後のホジキンリンパ腫	欧州 P-III	
		ホジキンリンパ腫(フロントライン適応)	欧州 P-III	
SYR-322 <aalogliptin>	DPP-4 阻害薬 (経口剤)	糖尿病 糖尿病(ピオグリタゾンとの合剤) 糖尿病(メホルミンとの合剤)	米国 承認(13/1) 欧州 申請(12/5) 米国 承認(13/1) 欧州 申請(12/6) 米国 承認(13/1) 欧州 申請(12/6)	自社品
TAK-390MR <dexlansoprazole>	プロトンポンプ阻害薬 (経口剤)	逆流性食道炎の治療およびその維持療法・ 非びらん性胃食道逆流症	欧州 申請(12/3) 日本 P-II	自社品
OMONTYS[®] <peginesatide>	エリスロポエチン受容体 作動薬(合成ペプチド) (注射剤)	透析期患者(成人)を対象とした腎性貧血	欧州 申請(12/2)	導入品 (Affymax 社)
- <lurasidone hydrochloride>	非定型抗精神病薬 (経口剤)	統合失調症 双極性障害	欧州 申請(12/9) 欧州 P-III	導入品 (大日本住友製薬)
Lu AA21004 <vortioxetine>	多重作用メカニズム型抗うつ薬 (経口剤)	大うつ病 全般性不安障害	米国 申請(12/10) 日本 P-III 米国 P-III	導入品 (Lundbeck 社)
ATL-962 <cetilistat>	リパーゼ阻害薬 (経口剤)	肥満症	日本 申請(12/10)	導入品 (Norgine BV 社*)
Contrave[®] <naltrexone SR /bupropion SR>	μ オピオイド受容体拮抗薬・ ドーパミン/ノルエピネフリン 再取込阻害薬(経口剤)	肥満症	米国 FDA Complete Response Letter 受領(11/1)	導入品 (Orexigen 社)
TAK-875 <->	GPR40 作動薬(グルコース依存性 インスリン分泌促進薬) (経口剤)	糖尿病	米国 P-III 欧州 P-III 日本 P-III	自社品
TAK-700 <orteronel>	非ステロイド系アンドロゲン合成 阻害薬(経口剤)	前立腺癌	米国 P-III 欧州 P-III 日本 P-III	自社品
MLN9708 <ixazomib citrate>	プロテアソーム阻害薬 (経口剤/注射剤)	多発性骨髄腫	米国 P-III 欧州 P-III 日本 P-I	自社品
		再発・難治性の原発性 AL アミロイドーシス	米国 P-III 欧州 P-III	
		固形癌	米国 P-I	

*1 09年10月15日、Alizyme 社は ATL-962(Cetilistat) 事業を Norgine BV 社に譲渡

開発コード／製品名 ＜一般名＞	薬効(剤形)	適応症	開発段階	自社品/導入品
MLN0002 <vedolizumab>	ヒト化抗 $\alpha 4 \beta 7$ インテグリン モノクローナル抗体 (注射剤)	潰瘍性大腸炎 クローン病	米国 P-III 欧州 P-III 日本 P-I 米国 P-III 欧州 P-III	自社品
MLN8237 <alisertib>	オーロラ A キナーゼ阻害薬 (経口剤)	再発・難治性の末梢性 T 細胞性リンパ腫 びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫、 非小細胞肺癌、小細胞肺癌、胃食道癌 頭頸部癌、乳癌、卵巣癌 非ホジキンリンパ腫 固形癌	米国 P-III 欧州 P-III 米国 P-II 欧州 P-II 日本 P-I 日本 P-I	自社品
SYR-472 <trelagliptin>	DPP-4 阻害薬 (経口剤)	糖尿病	日本 P-III 米国 P-II 欧州 P-II	自社品
TAK-491 <azilsartan medoxomil>	アンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (経口剤)	高血圧症(コロルトリドンとの合剤)	欧州 P-III	自社品
TAK-536 <azilsartan>	アンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (経口剤)	高血圧症(アムロジピンベシル酸塩との合剤)	日本 P-III	自社品
TAK-438 <vonoprazan>	カリウムイオン競合型アシッド ブロッカー(経口剤)	酸関連疾患 (胃食道逆流症、消化性潰瘍等)	日本 P-III	自社品
TAK-375SL <ramelteon>	MT ₁ /MT ₂ 受容体作動薬 (舌下剤)	双極性障害	米国 P-III	自社品
- <motesanib diphosphate>	VEGFR1-3, PDGFR, c-Kit 阻害薬 (経口剤)	進行性非扁平上皮型非小細胞肺癌	日本 P-III	導入品 (Amgen 社)
AMG 386 <trebananib>	アンジオポエチン阻害 ペプチボディ(注射剤)	卵巣癌	日本 P-III	導入品 (Amgen 社)
AMG 479 <ganitumab>	ヒト型抗 IGF-1R モノクローナル抗体(注射剤)	転移性腺癌	日本 P-III	導入品 (Amgen 社)
Sovrima® <idebenone>	ミトコンドリア標的抗酸化薬 (経口剤)	フリードライヒ失調症 デュシェンヌ型筋ジストロフィー	欧州 P-III ^{*2} 欧州 P-III	導入品 (Santhera 社)
TAK-816 <->	Hib ワクチン (注射剤)	Hib 感染症予防	日本 P-III	導入品 (Novartis 社)
TAK-428 <->	神経栄養因子産生促進薬 (経口剤)	糖尿病神経障害	米国 P-II 欧州 P-II	自社品
TAK-385 <->	LH-RH アンタゴニスト (経口剤)	子宮内膜症、子宮筋腫 前立腺癌	日本 P-II — P-I	自社品
- <veltuzumab>	CD20 モノクローナル抗体 (注射剤)	関節リウマチ	米国 P-II 欧州 P-II	導入品 (Immunomedics 社)
TAK-361S <->	4 種混合ワクチン (注射剤)	百日せき、ジフテリア、破傷風、ポリオによる 感染症の予防	日本 P-II	導入品 (日本ポリオ)
Norovirus vaccine	ノロウイルスワクチン (注射剤)	ノロウイルスによる急性胃腸炎の予防	— P-I / II	自社品
TAK-329 <->	グルコキナーゼ活性化薬 (経口剤)	糖尿病	— P-I	自社品
TAK-733 <->	MEK 阻害薬 (経口剤)	固形癌	— P-I	自社品

*2 良好な解析結果が得られた場合、再申請

開発コード/製品名 ＜一般名＞	薬効(剤形)	適応症	開発段階	自社品/導入品
TAK-272 ＜-＞	直接的レニン阻害薬 (経口剤)	高血圧症	— P-I	自社品
TAK-357 ＜-＞	認知機能改善薬 (経口剤)	アルツハイマー病	— P-I	自社品
TAK-063 ＜-＞	PDE10A 阻害薬 (経口剤)	統合失調症	— P-I	自社品
MLN4924 ＜-＞	NEDD8 活性化酵素阻害薬 (注射剤)	進行性癌	— P-I	自社品
MLN0128*3 ＜-＞	mTORC1/2 阻害薬 (経口剤)	多発性骨髄腫、 ワルデンシュトレームマクログロブリン血症、 固形癌	— P-I	自社品
MLN1117*4 ＜-＞	PI3K α イソフォーム阻害薬 (経口剤)	固形癌	— P-I	自社品
MLN0264 ＜-＞	抗 GCC 抗体薬物複合体 (注射剤)	進行性消化器癌	— P-I	自社品
MLN2480 ＜-＞	pan-Raf キナーゼ阻害薬 (経口剤)	固形癌	— P-I	導入品 (Sunesis 社)
MT203 ＜namilumab＞	GM-CSF モノクローナル抗体 (注射剤)	関節リウマチ	欧州 P-I	導入品 (Amgen 社*5)
Lu AA24530 ＜-＞	多重作用メカニズム型抗うつ薬 (経口剤)	大うつ病・全般性不安障害	米国 P-I*6 日本 P-I	導入品 (Lundbeck 社)
AMG 403 ＜fulranumab＞	ヒト型抗ヒト神経成長因子 (NGF) モノクローナル抗体 (注射剤)	疼痛	日本 P-I	導入品 (Amgen 社)
ITI-214 ＜-＞	PDE1 阻害薬 (経口剤)	統合失調症に伴う認知機能障害	— P-I	導入品 (Intra-Cellular)

*3 INK128 の開発コードを変更

*4 INK1117 の開発コードを変更

*5 12年3月7日、Micromet 社は Amgen 社に買収され、完全子会社となった

*6 米国において P-III 試験準備中

■ 剤型・効能追加

開発コード/製品名 ＜一般名＞ 製品名(国・地域)	薬効	適応症/剤型	開発段階	自社品/導入品
AG-1749 ＜lansoprazole＞ タケプロン®(日本) プレバシド®(米国) オガスト® ほか(欧州)	プロトンポンプ阻害薬	ヘリコバクター・ピロリ除菌に関するプロトンポンプ阻害薬、アモキシシリン水和物製剤、クラリスロマイシン製剤またはメロニダゾール製剤の3剤併用療法	日本 申請(12/8)	自社品
NE-58095 ＜risedronate＞ ベネット®(日本)	骨吸収抑制薬	月1回投与製剤	日本 承認(12/12)	導入品 (味の素)
AMITIZA® ＜lubiprostone＞	クロライドチャネル開口薬	オピオイド誘発性便秘	米国 申請(12/7)	導入品 (Sucampo 社)
TAP-144-SR ＜leuprorelin acetate＞ リュープリン®(日本) ルプロン・デポ®(米国) エナントン® ほか(欧州)	LH-RH アゴニスト	前立腺癌、閉経前乳癌 (6ヶ月製剤)	日本 P-III	自社品
VELCADE® ＜bortezomib＞	プロテアソーム阻害剤	マンツル細胞リンパ腫(フロントライン適応) 再発性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫	米国 P-III 米国 P-II	自社品
AD4833/TOMM40	インスリン抵抗性改善薬/ バイオマーカー	アルツハイマー病の発症予防	— P-I	導入品 (Zinfandel 社)

■ 最近のステージアップ品目 ※2011年度決算開示(2012年5月11日)以降の変更点

開発コード	効能	国/地域	ステージ
Feraheme® / Rienso®	成人における慢性腎疾患に伴う鉄欠乏性貧血	欧州	承認(12/6)
ロトリガ®	高脂血症	日本	承認(12/9)
teduglutide	短腸症候群	欧州	承認(12/9)
SYR-322	糖尿病	欧州	申請(12/5)
SYR-322	糖尿病(ピオグリタゾンとの合剤)	欧州	申請(12/6)
SYR-322	糖尿病(メホルミンとの合剤)	欧州	申請(12/6)
lubiprostone	オピオイド誘発性便秘	米国	申請(12/7)
AG-1749	ヘリコバクター・ピロリ除菌に関するプロトンポンプ阻害薬、アモキシシリン水和物製剤、クラリスロマイシン製剤またはメロニダゾール製剤の3剤併用療法	日本	申請(12/8)
lurasidone hydrochloride	統合失調症	欧州	申請(12/9)
Lu AA21004	大うつ病	米国	申請(12/10)
ATL-962	肥満症	日本	申請(12/10)
MLN9708	多発性骨髄腫	米国・欧州	P-III
TAK-375SL	双極性障害	米国	P-III
MLN9708	再発・難治性の原発性ALアミロイドーシス	米国・欧州	P-III
TAK-357	アルツハイマー病	—	P-I
TAK-063	統合失調症	—	P-I
MLN0264	進行性消化器癌	—	P-I
ITI-214	統合失調症に伴う認知機能障害	—	P-I
SGN-35	再発・難治性のホジキンリンパ腫	欧州	承認(12/10)
SGN-35	再発・難治性の全身性未分化大細胞リンパ腫	欧州	承認(12/10)
NE-58095	骨粗鬆症(月1回投与製剤)	日本	承認(12/12)
SYR-322	糖尿病	米国	承認(13/1)
SYR-322	糖尿病(ピオグリタゾンとの合剤)	米国	承認(13/1)
SYR-322	糖尿病(メホルミンとの合剤)	米国	承認(13/1)
SGN-35	ホジキンリンパ腫(フロントライン適応)	欧州	P-III
SGN-35	成熟型T細胞性リンパ腫(フロントライン適応)	欧州	P-III

※太線以下は、2012年度第2四半期決算開示(2012年10月31日)以降の変更点

■ **開発中止品目** ※2011年度決算開示(2012年5月11日)以降の変更点

開発コード	効能(開発ステージ)	中止および終了理由
TAK-701	進行性癌(P-I)	現在の当社の開発品のポートフォリオを踏まえて検討した結果、開発中止を決定
TAK-591	高血圧症(P-I)	TAK-536が発売されたため、TAK-591の開発を中止
MLN0518	神経膠腫(米国 P-II)	単剤および併用投与の試験結果から神経膠腫で今後開発を進めるためのデータが得られず、開発中止を決定
motesanib diphosphate	進行性非扁平上皮型非小細胞肺癌(米国・欧州 P-III)	P-III試験「MONET1 試験」において、主要評価項目である全生存期間において、統計学的に有意な改善は認められなかったため、米国と欧州における開発中止を決定
motesanib diphosphate	乳癌(米国 P-I/II)	現在 motesanib diphosphate については、日本やアジア諸国で実施している進行性非扁平上皮型非小細胞肺癌を対象とした試験に特化することにしたため開発中止を決定
Vectibix®	頭頸部扁平上皮癌(日本 P-III)	P-III試験において、主要評価項目である全生存期間において、統計学的に有意な改善が認められなかったため、米国アムジェン社と当社は今後さらなる試験を行わないことを決定
TAK-259	過活動膀胱(P-I)	安全性について、ターゲット・プロファイルを達成することができなかったため、開発中止を決定
TAK-448	前立腺癌(P-I)	開発における優先順位見直しの結果、開発中止を決定
TAK-960	固形癌(P-I)	開発における優先順位見直しの結果、開発中止を決定
TAK-441	固形癌(P-I)	開発における優先順位見直しの結果、開発中止を決定
MLN8237	急性骨髄性白血病(P-I)	単剤投与の試験「C14005」の結果を踏まえ、本効能での開発中止を決定
MLN8237	ハイリスクの骨髄異形成症候群(P-I)	単剤投与の試験「C14005」の結果を踏まえ、本効能での開発中止を決定

※太線以下は、2012年度第2四半期決算開示(2012年10月31日)以降の変更点

■ 日米欧以外の地域での申請・承認

地域	国	開発コード／製品名(開発段階)
米州 (米国を除く)	アルゼンチン	TAK-491(申請 12/10)
	ブラジル	SYR-322(申請 11/8)、TAK-491(申請 11/11)、SYR-322/メトホルミンとの合剤(申請 12/6)、 TAK-491/クロルタリドンとの合剤(申請 12/6)
	コロンビア	DAXAS*7(申請 11/8)、TAK-390MR(申請 12/8)、TAK-491(申請 12/8)、SYR-322(申請 12/9)
	ベネズエラ	DAXAS(申請 10/1)
欧州 (欧州連合(EU) 加盟国を除く)	アルバニア	DAXAS(申請 12/5)
	コソボ	DAXAS(承認 12/5)
	マケドニア	DAXAS(申請 12/11)
	モンテネグロ	DAXAS(申請 11/6)
	スイス	TAK-491(承認 12/8)、Rienso(承認 12/9)、lurasidone hydrochloride(統合失調症適応の申請 12/3)、 SYR-322(申請 12/7)、SYR-322/メトホルミンとの合剤(申請 12/7)、SYR-322/ピオグリタゾンとの合剤(申請 12/8)、 TAK-390MR(申請 12/9)、TAK-491/クロルタリドンとの合剤(申請 13/1)
ロシア/CIS	アルメニア	DAXAS(承認 12/10)
	ウズベキスタン	DAXAS(承認 12/6)
アジア (日本を除く)	中国	DAXAS(申請 11/12)、SYR-322(申請 12/3)
	香港	TAK-390MR(承認 12/8)、TAK-491(申請 12/3)
	インドネシア	DAXAS(承認 12/11)、SYR-322(申請 11/1)、TAK-390MR(申請 11/12)、TAK-491(申請 12/2)、 TAK-491/クロルタリドンとの合剤(申請 12/7)、TCV-116*8/アムロジピンベシル酸塩との合剤(申請 12/10)
	マカオ	TAK-390MR(申請 12/10)
	マレーシア	TAK-390MR(申請 12/9)
	フィリピン	TAK-491(承認 12/12)、TAK-390MR(承認 12/12)、TCV-116/アムロジピンベシル酸塩との合剤(申請 12/1)
	シンガポール	TAK-390MR(申請 12/10)、TAK-491(申請 12/12)
	韓国	MEPACT*9(承認 12/6)、TAK-390MR(承認 12/10)、SYR-322(申請 12/3)
	台湾	TAK-375(承認 12/11)、SYR-322(申請 11/3)、TAK-491(申請 11/8)、TAK-390MR(申請 11/9)、 TAK-491/クロルタリドンとの合剤(申請 12/5)、TCV-116/アムロジピンベシル酸塩との合剤(申請 12/11)
	タイ	DAXAS(申請 11/1)、TAK-390MR(申請 11/8)、TAK-491(申請 11/9)、 TAK-491/クロルタリドンとの合剤(申請 12/6)、TCV-116/アムロジピンベシル酸塩との合剤(申請 12/8)
ベトナム	DAXAS(申請 10/12)	
その他	オーストラリア	SYR-322(申請 12/8)、SYR-322/メトホルミンとの合剤(申請 12/11)
	ボツワナ	DAXAS(申請 11/12)
	エジプト	DAXAS(申請 12/1)
	イスラエル	DAXAS(承認 12/11)
	ケニア	DAXAS(申請 12/7)
	モーリシャス	DAXAS(申請 11/3)
	サウジアラビア	DAXAS(申請 12/5)
	南アフリカ	DAXAS(承認 12/10)
	タンザニア	DAXAS(申請 11/9)
	ウガンダ	DAXAS(申請 11/4)
	ザンビア	DAXAS(申請 12/2)

*7 DAXAS® <roflumilast> PDE4 阻害薬(経口剤) 慢性閉塞性肺疾患治療剤

*8 TCV-116 <candesartan cilexetil> アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(経口剤) 高血圧症治療剤

*9 MEPACT® <mifamurtide> 免疫賦活剤(注射剤) 非転移性骨肉腫治療剤